

栃木県の農林水産業の概要

特徴・取組

栃木県は、北部から西部にかけて那須連山、帝釈（たいしゃく）山地、足尾（あしお）山地の山岳地帯があり、南部には関東平野が広がり、那珂（なか）川、鬼怒（きぬ）川、渡良瀬（わたらせ）川が流れ、水資源が豊富である。

また、東京から60～160kmに位置し、東北縦貫自動車道や北関東自動車道、東北新幹線などの交通網も発達している。

全国有数のものづくり県として発展を遂げた栃木県の産業構造は、第2次産業、特に製造業の割合が高く、県内総生産に占める第2次産業の構成比は43.3%で全国2位（うち食料品製造業26.6%）。

豊かな農産物や豊富で良質な水に恵まれ、首都圏の食料供給基地としての役割を担う栃木県では、食に関連する産業の振興を図ることにより、食をテーマに地域経済が成長・発展し、活力あふれる「フードバレーとちぎ」を目指す取組を推進している。

農業では、肥沃な農地と豊富な水資源、穏やかな気候に恵まれ、米麦、園芸作物、畜産など多彩な農畜産物が豊富である。

林業では、豊富な森林資源を活用し、素材生産、しいたけ等の特用林産物の生産が盛んである。

水産業では、那珂川や鬼怒川などの内水面で、ます類やあゆを中心に漁業や養殖が盛んである。

栃木県は、大消費地に近く、平坦で広大な水田が広がり、野菜カット工場等の食品企業が多く立地する特徴を持つことから、首都圏への野菜や果実の食料供給を担う「園芸大国とちぎづくり」を推進している。

いちごやトマトは高い技術力を有しており、今後、ICT等の技術を活用することにより、収量や品質の更なる向上を目指している。

また、更に開発された品種や優れた生産技術の導入により、にらやアスパラガス、日本なしなどを主力品目として生産拡大を目指している。

主な農林水産物

米

ブランド米として知名度のあるコシヒカリ・とちぎの星・なすひかり等を作付け。飼料用米の収穫量8.5万tは全国1位。



麦

二条大麦（ビール麦）を中心に小麦や六条大麦などの麦類を作付け。（二条大麦の収穫量全国2位）



いちご

県育成のとちあいかやとちおとめ、スカイベリーが栽培され、収穫量は半世紀以上日本一。（収穫量全国1位）



トマト

高軒高（こうのきだか）ハウスやICT等新技術を取り入れ多収量の周年栽培。（収穫量全国5位）



にら

いちご、トマトに次ぐ産出額を誇る重要野菜。県育成のゆめみどりを普及することにより収穫量日本一を目指す。（収穫量全国2位）



かんぴょう

県央・県南部の畑作地帯がゆうがおの主産地であり、国内生産量の9割以上を占める。（収穫量全国1位）



アスパラガス

水田の活用や畜産農家と連携した良質な堆肥の活用などにより県内全域で作付け。（収穫量全国6位）



日本なし

幸水・豊水が主力品種だが、あきづきや県育成ののっこりなどの晩生種の導入により、出荷期間が拡大し海外へも輸出。（収穫量全国3位）



乳用牛（生乳）

県北部を中心に北海道に次ぐ、5.4万頭を飼養、生乳の生産も盛ん。（飼養頭数全国2位）



肉用牛

「とちぎ和牛」としてブランド化され、シンガポール、アメリカ等に輸出。（飼養頭数全国7位）



栃木県内の各地域における農林水産物

県北地域

【農畜産物】 水稻、二条大麦、小麦、いちご、
にら、なす、トマト、ねぎ、うど、アスパラ
ガス、かんしょ、日本なし、りんご、そば、
スプレーぎく、リンドウ（切り花類）、乳用
牛（生乳）、肉用牛、豚

【林産物】 生しいたけ、まいたけ

【水産物】にじます、あゆ、ヤシオマス

県南地域

【農畜産物】 水稻、二条大麦、小麦、そば、いちご、かんぴょう、なす、トマト、たまねぎ、はくさい、かき菜、アスパラガス、にら、ぶどう、トルコギキョウ（切り花類）、肉用牛

県央地域

【農畜産物】水稻、二条大麦、小麦、いちご、六条大麦、落花生、にら、こんにゃくいも、さといも、なす、トマト、たまねぎ、はくさい、アスパラガス、日本なし、そば、えごま、シクラメン（鉢もの類）、スプレーぎく、リンドウ（切り花類）、鶏卵

【林産物】生しいたけ、まいたけ

【水産物】にじます、あゆ

栃 木 県 の 農 業 (1)

- ・ 耕地面積は12万700haで全国9位。うち田が9万3,900ha、畑が2万6,800ha。
- ・ 農業経営体数は3万2,726経営体で全国10位。うち法人経営体が557経営体で25位。
- ・ 認定農業者数は7,632経営体で全国8位。うち法人数が506法人で25位。

耕地面積

区 分	栃 木 県	全 国	全国順位
耕地面積	120,700 ha	4,297,000 ha	9
田	93,900 ha	2,335,000 ha	7
畑	26,800 ha	1,962,000 ha	16
普通畑	22,300 ha	1,120,000 ha	15
樹園地	2,060 ha	253,500 ha	36
牧草地	2,490 ha	589,000 ha	12
参考) 総土地面積	640,809 ha	37,797,539 ha	20

出典:「令和5年耕地面積(7月15日現在)」、「令和6年全国都道府県市区町村別面積調(1月1日時点)」(国土交通省国土地理院)

荒廃農地面積

区 分	栃 木 県	全 国	全国順位
荒廃農地面積	1,926 ha	253,217 ha	36

出典:「令和4年度の荒廃農地面積(令和5年3月31日現在)」

担い手への農地の集積状況

区 分	栃 木 県	全 国	全国順位
担い手への集積面積	64,506 ha	2,573,672 ha	8
集積率	53.1 %	59.5 %	15

出典:「農地中間管理機構の実績等に関する資料(令和4年度版)」

都道府県の農業、林業、漁業の表の見方

- ・ 令和6年3月31日時点における最新の統計等の公表データを使用
- ・ 表中に使用した記号は次のとおり

「O」: 単位に満たないもの(例: 0.4t→0t)

「-」: 事実のないもの

「…」: 調査を欠くもの

「x」: 秘密を保護するため統計数値を公表しないもの。

「*」: 秘密を保護するため統計数値を公表していない都道府県を除いた順

農業経営体数、農家数及び集落営農数

区 分	栃 木 県	全 国	全国順位
農業経営体数	32,726 経営体	1,075,705 経営体	10
法人経営体	557 経営体	30,707 経営体	25
総農家数	46,202 戸	1,747,079 戸	15
販売農家	31,993 戸	1,027,892 戸	10
参考) 世帯総数	796,923 世帯	55,830,154 世帯	19
集落営農数	233 集落営農	14,204 集落営農	26

出典:「2020年農林業センサス(令和2年2月1日現在)」、「令和2年国勢調査」(総務省統計局)、「令和5年集落営農実態調査結果(令和5年2月1日現在)」

基幹的農業従事者数及び認定農業者数

区 分	栃 木 県	全 国	全国順位
基幹的農業従事者数	42,914 人	1,363,038 人	10
男	25,613 人	822,144 人	9
女	17,301 人	540,894 人	10
65歳以上	29,822 人	948,621 人	8
基幹的農業従事者数に対する65歳以上割合	69.5 %	69.6 %	-
認定農業者数	7,632 経営体	219,846 経営体	8
法人数	506 法人	28,720 法人	25
参考) 総人口数	1,933,146 人	126,146,099 人	19

出典:「2020年農林業センサス(令和2年2月1日現在)」、「認定農業者の認定状況(令和5年3月末現在)」、「令和2年国勢調査」(総務省統計局)

栃 木 県 の 農 業 (2)

- ・農業産出額は2,718億円で全国9位。うち米が458億円(16.9%)、野菜が749億円(27.6%)、畜産が1,262億円(46.4%)。
- ・農畜産物の生産状況は、いちご、かんぴょうが全国1位、二条大麦、にら、乳用牛、生乳が2位、日本なしが3位。
- ・農業生産関連事業は、農産物直売所の年間販売金額(売上)が352億円で全国9位、事業体数は550事業体で18位。

農業産出額

区 分	栃木県	全国	全国順位
農業産出額	2,718 億円 (100.0)	90,015 億円 (100.0)	9
米	458 億円 (16.9)	13,946 億円 (15.5)	10
麦類	46 億円	647 億円	2 *
雑穀	7 億円	83 億円	3
豆類	7 億円	715 億円	17
いも類	6 億円	2,199 億円	34
野菜	749 億円 (27.6)	22,298 億円 (24.8)	8
果実	82 億円 (3.0)	9,232 億円 (10.3)	27
花き	77 億円	3,493 億円	15
工芸農作物	3 億円	1,551 億円	29
その他作物	16 億円	607 億円	11 *
畜産	1,262 億円 (46.4)	34,678 億円 (38.5)	7
肉用牛	244 億円	8,257 億円	8
乳用牛	469 億円	9,013 億円	2
生乳	418 億円	7,916 億円	2
豚	287 億円	6,713 億円	8
鶏	260 億円	9,716 億円	14
鶏卵	244 億円	5,638 億円	7
ブロイラー	x 億円	3,940 億円	- *
その他畜産物	3 億円	979 億円	20
加工農産物	6 億円	565 億円	15

出典:「令和4年生産農業所得統計」

注:()は農業産出額を100%とした割合である。

農畜産物の生産状況

区 分		年次	栃 木 県	全 国	全国順位
二条大麦	収穫量	R5	35,300 t	151,300 t	2 *
トマト	収穫量	R4	32,000 t	707,900 t	5
にら	収穫量	R4	8,320 t	54,300 t	2 *
アスパラガス	収穫量	R4	1,670 t	26,000 t	6
いちご	収穫量	R4	24,400 t	161,100 t	1
日本なし	収穫量	R5	15,800 t	183,400 t	3
肉用牛	飼養頭数	R5	84,900 頭	2,687,000 頭	7
乳用牛	飼養頭数	R5	54,000 頭	1,356,000 頭	2
生乳	生産量	R5	341,645 t	7,298,933 t	2
かんぴょう	収穫量	R2	209 t	210 t	1

出典:「作物統計」、「野菜生産出荷統計」、「果樹生産出荷統計」、「畜産統計」、「牛乳乳製品統計」、「地域特産野菜生産状況」

農業生産関連事業の年間販売(売上)金額及び事業体数

区 分	栃 木 県	全 国	全国順位
農産加工	総額 25,284 百万円 事業体数 690 事業体	1,012,818 百万円 28,980 事業体	14 16
農産物直売所	総額 35,226 百万円 事業体数 550 事業体	1,087,897 百万円 22,380 事業体	9 18
観光農園	総額 1,631 百万円 経営体数 140 経営体	35,999 百万円 5,090 経営体	7 13
農家民宿	総額 27 百万円 経営体数 20 経営体	4,565 百万円 1,170 経営体	29 * 16 *
農家レストラン	総額 1,518 百万円 事業体数 40 事業体	35,236 百万円 1,330 事業体	4 * 7 *

出典:「令和4年度6次産業化総合調査結果」

栃 木 県 の 林 業

- ・ 林業産出額は127.4億円で全国11位。うち木材生産が91.1億円、栽培きのこ類生産が36億円。
- ・ 林産物の生産状況は、素材生産量が全国12位、その他きのこ（うすひらたけ）が2位、黒炭が5位、まいたけが8位。

林業産出額

区 分	栃 木 県	全 国	全国順位
林業産出額	127.4 億円	5,806.6 億円	11
木材生産	91.1 億円	3,604.6 億円	10 *
栽培きのこ類生産	36.0 億円	2,079.5 億円	18

出典：「令和4年林業産出額」

林産物の生産状況

区 分	栃 木 県	全 国	全国順位
素材生産量	577 千m ³	22,082 千m ³	12 *
針葉樹	523 千m ³	20,386 千m ³	13
すぎ	407 千m ³	13,238 千m ³	10
ひのき	94 千m ³	2,971 千m ³	13
広葉樹	54 千m ³	1,696 千m ³	7 *
黒炭	生産量 98 t	3,952 t	5 *
その他きのこ（うすひらたけ）	生産量 10 t	85 t	2 *
まいたけ	生産量 249 t	56,763 t	8 *
わさび	生産量 7 t	1,635 t	11

出典：「令和4年木材需給報告書」、「令和4年特用林産基礎資料」

林野面積

区 分	栃 木 県	全 国	全国順位
林野面積	339,113 ha	24,770,201 ha	28
国有林	118,663 ha	7,153,338 ha	15
民有林	220,450 ha	17,616,863 ha	34
人工林面積	154,151 ha	10,133,111 ha	28

出典：「2020年農林業センサス(令和2年2月1日現在)」

林業経営体数

区 分	栃 木 県	全 国	全国順位
林業経営体数	1,015 経営体	34,001 経営体	9
法人経営体	64 経営体	4,093 経営体	24

出典：「2020年農林業センサス(令和2年2月1日現在)」

製材工場数

区 分	栃 木 県	全 国	全国順位
工場数	106 工場	3,804 工場	13
製材用素材の入荷があった工場数	105 工場	3,778 工場	13
国産材のみ	91 工場	3,054 工場	12
国産材と輸入材	5 工場	560 工場	32

出典：「令和4年木材需給報告書」

栃 木 県 の 漁 業

- ・水産物の生産状況は、内水面漁業のあゆが全国2位、内水面養殖業のあゆが4位。
- ・内水面漁業経営体数は79経営体で、全国16位。

漁業産出額

区 分	栃 木 県	全 国	全国順位
海面漁業・養殖業産出額	… 億円	14,372 億円	－

出典：「令和4年漁業産出額」

漁業経営体数

区 分	栃 木 県	全 国	全国順位
海面漁業経営体数	… 経営体	79,067 経営体	－
内水面漁業経営体数	79 経営体	4,772 経営体	16

出典：「2018年漁業センサス(平成30年11月1日現在)」

漁業就業者数

区 分	栃 木 県	全 国	全国順位
海面漁業就業者数	… 人	151,701 人	－
男	… 人	134,186 人	－
女	… 人	17,515 人	－

出典：「2018年漁業センサス(平成30年11月1日現在)」

漁船隻数

区 分	栃 木 県	全 国	全国順位
漁船隻数	… 隻	132,201 隻	－
動力漁船	… 隻	69,920 隻	－

出典：「2018年漁業センサス(平成30年11月1日現在)」

水産物の生産状況

区 分	栃 木 県	全 国	全国順位
海面漁業・養殖業生産量	… t	3,862,831 t	－ *
海面漁業漁獲量	… t	2,950,992 t	－
海面養殖業収獲量	… t	911,839 t	－ *
内水面漁業・養殖業生産量	1,033 t	54,115 t	13 *
内水面漁業漁獲量	304 t	22,612 t	7
あゆ	299 t	1,776 t	2
内水面養殖業収獲量	729 t	31,503 t	10 *
あゆ	299 t	3,683 t	4 *

出典：「令和4年漁業・養殖業生産統計」

漁業生産関連事業の年間販売（売上）金額及び事業体数

区 分	栃 木 県	全 国	全国順位
水産加工	… 百万円	181,820 百万円	－ *
事業体数	… 事業体	1,460 事業体	－ *
水産物直売所	… 百万円	37,410 百万円	－ *
事業体数	… 事業体	840 事業体	－ *
漁家民宿	… 百万円	5,986 百万円	－ *
経営体数	… 経営体	740 経営体	－ *
漁家レストラン	… 百万円	11,598 百万円	－ *
事業体数	… 事業体	420 事業体	－ *

出典：「令和4年度6次産業化総合調査結果」

栃木県の農林水産業の話題等（１）

とちぎグリーン農業推進協議会の設立と方針の策定

「みどりの食料システム戦略」をはじめとする、脱炭素化や環境負荷低減の取組を踏まえ、栃木県の農業における環境負荷低減と収益性向上の両立をオールとちぎで推進するために「とちぎグリーン農業」を打ち出した。

環境と調和した農業生産の実現に向けて、生産・流通・消費の各段階における取組を推進するため、県や市町、関係団体等で構成する「とちぎグリーン農業推進協議会」を令和4年度に設立し、今後の推進目標や方策などを示した「とちぎグリーン農業推進方針」を策定した。今後は、多くの県民の理解と共感を得ながら「環境負荷の低減」と「収益性の向上」を両立する農業生産の実現を目指し、様々な取組を進めていく。



とちぎグリーン農業推進方針

有機農業のモデル産地づくり

栃木県では有機農業の取組拡大に向けた先進的モデル地区を創出するため、有機農業者の確保育成や有機農産物の学校給食への活用など地域ぐるみで有機農業の産地づくりに取り組む市町等の支援を行う。栃木県では、3市町（小山市、市貝町、塩谷町）が有機農業の産地づくりに取り組んでおり、令和5（2023）年3月27日には、小山市においてオーガニックビレッジ宣言が行われた。今後、これらの優良事例を県内に紹介し、有機農業の面的な拡大を図っていく。



オーガニックビレッジ宣言（小山市）

「いちご王国・栃木」戦略の策定

「いちご王国・栃木」の更なる発展に向け、生産者、農業団体とともに、「とちあいか」を核として、デジタル技術の進展や地球温暖化などの時代の変化を的確に捉え、10年後の目指す姿を明らかにした「いちご王国・栃木」戦略を令和4年度に策定した。

本戦略に基づき、生産者、農業団体、県が一体となって、“新たな時代を拓く人材の確保・育成”“いちご生産のイノベーションの実現”“絶対的な「いちご王国・栃木」ブランドの確立・発信”に取り組んでいく。

※「とちあいか」

平成30（2018）年7月9日に農林水産省に品種登録を出願。令和2（2020）年3月5日に「とちあいか」の名称が商標登録。

収量は「とちおとめ」より30～40％程度多く、果形はハート形で、平均一果重は20g程度と「とちおとめ」に比べて大きい。



とちあいか

栃木県の農林水産業の話題等（２）

栃木県誕生150年記念「いちご王国・栃木の日」イベントを開催

令和6(2024)年1月14日(日)に、栃木県誕生150年記念「いちご王国・栃木の日」イベントを開催された。

県庁いちごホール(県庁本館1階県民ロビー)では「いちご王国」マルシェを開催し、生鮮いちごやいちごスイーツ、いちごの加工品等を販売する24店舗が出展。「とちあいか」の試食提供等も行われた。

県民広場では「出張いちご狩り体験」、芝生広場ではいちご型熱気球の搭乗体験が行われ、たくさん家族連れが「いちごの日」を楽しむ姿が見られた。昭和館前広場では栃木グルメ等を扱うキッチンカーや、チョコ掛けとちあいかの試食等も行われた。

県議会議事堂1階ロビーでは、地元高校の吹奏楽部による演奏や生活教養科の生徒によるファッションショー、の園児によるダンスが行われ、華やかなパフォーマンスに大きな拍手が送られた。

記念セレモニーでは、「いちご川柳コンクール」、「とちぎの地産地消食べ歩きフェア」の表彰式が行われ、受賞者にはいちご王国の国王である福田富一知事から表彰盾と記念品のいちごが贈呈された。



園児によるダンス

県産農産物の輸出額が過去最高

県では、日本産の農産物や食品の人気の高まっている海外を新たな販路の一つとし、令和7(2025)年度の輸出額10億円を目標に県産農産物の輸出促進に取り組んでいる。

令和4(2022)年度については、輸出に取り組む農業者等への支援による産地づくりと海外でのプロモーション等による販路拡大に取り組んだ。

令和4(2022)年度の県産農産物の輸出額は、5億5,982万円(前年度比105%)で過去最高額となった。主な輸出品目の内訳は、牛肉が3億3,704万円と全体の約6割を占め、次いで花き、梨、米、いちごの順に多くなっている。

梨(主に「にっこり」)の輸出は、4,278万円となり、過去最高となった。特にタイ及びベトナムでは、知事によるトップセールスを実施し、現地の有力なバイヤーや消費者に対し積極的にPRしたことにより、それぞれの国で輸出額が増加となった。



タイ商業施設での魅力発信イベント(福田知事)